月　日 名前

／100点

【小6】国語 文章問題　説明文 2

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

森の中を歩くと、木々がまっすぐ空に向かってのびていることに気づきます。広い野原に一本だけ立っている木が、横にも大きく枝を広げているのとは、ずいぶんちがう姿です。同じなかまの木でも、なぜこのようなちがいが生まれるのでしょうか。

かぎをにぎっているのは、光です。植物は、葉に日光を受けて、生きるための養分を自分で作っています。光を受けられなければ、育つことができません。

森では、たくさんの木がすぐとなりに立っています。横に枝を広げようとしても、となりの木の枝とぶつかり、かげになってしまいます。そこで木は、ほかの木よりも高い所へ葉を持ち上げようとします。上へ上へとのびた木だけが、日光をたっぷり受けられるのです。森の木がまっすぐなのは、光をめぐる、目に見えない競争の結果だと言えます。

一方、野原の一本の木には、競争の相手がいません。光はどの方向からも当たるので、無理に高くのびる必要はありません。むしろ、横に枝を広げたほうが、多くの葉に光を当てることができます。

木の形は、その木が生まれつき決めているものではありません。まわりにどんな木があるか、光がどこから来るかによって、変わっていくのです。一本の木の姿には、その木が生きてきた場所の様子が記録されていると言えるでしょう。

（この問題のための書き下ろし）

問一　筆者は、森の木がまっすぐなのは何の結果だと言っていますか。本文から二十字までで書きぬきましょう。

問二　森の木が、横に枝を大きく広げないのはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　横に広げると、重さで木がたおれてしまうから。
イ　となりの木の枝とぶつかり、かげになってしまうから。
ウ　森の中では、風が強くふくから。

問三　野原の一本の木が、横に枝を広げるのはなぜですか。「競争」「光」という言葉を使って、四十五字までで書きましょう。

問四　「一本の木の姿には、その木が生きてきた場所の様子が記録されている」とありますが、どういうことですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　木の形を見れば、その木がどんな場所で育ったかが分かるということ。
イ　木のみきに、人が文字を書いて残しているということ。
ウ　木は、生まれたときから形が決まっているということ。